

我^が

我が強いなどと言いますと、自分の意志が強いと言う意味で

用いられます。

古代インドでは違う意味で用いられました。「我」(アートマン)

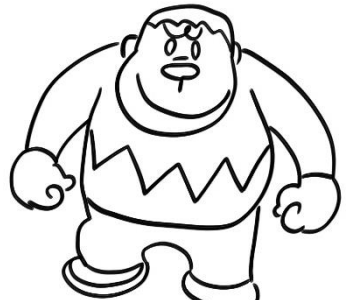
とは、自己を自己たらしめているものであり、これが宇宙の根源である「梵」(ブラフマン)と、同質であり、一つになることを目指していました。

ところが、お釈迦様はこれを否定されました。自己や我は、環境によってかわるのではないか、条件によってかわるのではないか。環境や条件は思い通りになるものではない。よって、「我」はないのだと。

すべてのものは生滅変化していくのだから、それに固執してはならない。思い通りにならないものに固執してはならない。会社だって、家族だって、自分の身体だって思い通りになりはしないです。

す。

我を否定する「無我」を表すのに、日本にはいい言葉があります。「おかげさま」です。



みなさん。今年はおくぐり杯ですよー 茗茶

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

懐石^{かいせき}

懐石料理と言いますが、なぜ懐に石と書くのでしょうか。

話は二千年程さかのぼります。お釈迦

様以来、仏教では食事を朝と正午までと定められていました。インドの環境下では昼までの食事で賄えましたが、仏教が

インドを超え北方に広まるにつれ問題が起りました。気温が寒いとエネルギーを使うのです。エネルギーを使うと腹が減るのです。でも午後は食事をとってはいけなと言われている。でも寒い。このジレンマの中で導き出した答えが、懐に温めた石をいれることで飢えや寒さをしのいだのです。この石を薬石といっています。

お寺での夕食の事を薬石という宗派があります。お腹を温める程度の粥をいただくのです。

懐石の懐石たる由縁は、現実と戒めのジレンマの中で導き出した僧侶の苦肉の策だったので

す。懐石料理を頂く際は、少しでも頭に浮かんでいただく幸いです。

